

(1) 学校のうつりかわり

さむらいが世の中をおさめていたころには、寺子屋てらこやがあって、民家みんかやお寺で、神主かんぬしさんやお坊ぼうさんに、習字やそろばんなどを習いましたが、ほんの少しの人しか行くことができませんでした。

はじめのころの学校

信夫一小	<ul style="list-style-type: none"> ・中新城のお寺——変則<small>へんそく</small>の学校 (1873年) ・中新城のお寺——新城小学校 (1874年) ・町屋の民家——町屋小学校 ・増見の民家——増見小学校 ・中新城のお寺・民家——新城尋常<small>じんじょう</small>小学校 (1887年) ・今のところへ新校舎——信夫尋常高等<small>こうとう</small>小学校 (1911年)
信夫二小	<ul style="list-style-type: none"> ・飯土用<small>いひどよう</small>の民家——信夫小学校飯土用分教場 (1890年) ・今のところへ新校舎——信夫尋常高等<small>こうとう</small>小学校外面分教場 (1911年)
大屋小 (隈戸小)	<ul style="list-style-type: none"> ・上小屋の民家——隈戸小学校 (1874年) ・下小屋樋ノ口のお寺——下小屋小学校 (1876年) ・下小屋西宿本校舎——下小屋尋常<small>じんじょう</small>小学校 ・隈戸十日市の民家——下小屋尋常<small>じんじょう</small>小学校分校舎 (1887年)
	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところへ新校舎——下小屋尋常<small>じんじょう</small>小学校 (1907年)

大信村の学校は、およそ120年ぐらい前につくられました。

さいしょは、お寺や民家(ふつうの家)をかりて学校を開きました。

お寺をかりた学校は、仏ぞうが見えないようにしたり、黒板をおいたりして、

本堂を教室らしくしたもので、机もそまつなものでした。学用品や教具くは今のよう(きょうぐ)にそろっていませんでした。本も毛筆もうひつで書かれたものをつかい、いくつもの学年がいっしょに勉強して(きょうごう)いました。また、学校ができて、家がまずしかったり、しごとの手つだいがいそがしいため、学校に行けない人や、赤んぼうをせおって学校に来る人もありました。

その後、新しい学校(せいと)の制度になりました。はじめのうちは、小学校は4年まで(尋常科(じんじょうか))でしたが、のちに6年まで義務教育(ぎむ)がのばされ高等科(こうとうか)の制度もできました。卒業(そつぎょう)してから、中学校(5年)やせん門学校(せんもん)に進(すす)むこともできるようになりました。

今のような、小学校6年、中学校3年、高等学校3年、大学4年という学校のしくみになったのは、1947年(昭和22年)からです。